

NICE SMILE

S U M M E R
2016
夏
VOL.66

地方独立行政法人 りんくう総合医療センター ● 院外・院内広報

発行・責任者：広報・年報編集委員長 森朝 紀文 / 〒598-8577 大阪府泉佐野市りんくう往来北2番地の23 TEL072-469-3111(代) FAX072-469-7929
http://www.rgmc.izumisano.osaka.jp/



「川平湾・石垣島」

油彩20号

谷口生子氏画(阪南市文化協会美術部)

水打つ地に鳥影の濃く過ぎぬ

小桜子(俳号)

りんくう総合医療センターは地方独立行政法人化して第1期の5か年が過ぎ、今年から第2期(5か年)の初年度に進み出したところで、当センターでは、地方独立行政法人化により病院運営経営の自由度が高まったことから、多くのことに素早く取り組んでまいりました。当センターには、この数年、毎年のように新たに発生する各種輸入感染症の砦としての感染症センターや、閑空を抱えた泉佐野市にも重要な国際診療科、またテレビドラマ「コウノドリ」のモデルになった泉州広域母子医療センター(荻田部長)や、南泉州の3次救急を担う救命救急センターなど、多くの誇るべき人材がそろっております。

また新たに、この7月からは心臓血管外科部長に船津俊宏先生を大阪労災病院からお迎えしました。また消化器については、3月末から念願の消化器内科部長に大西亨部長を、消化器外科には昨年から今年にかけて、上部消化管に出村公一先生、肝臓外科に畠野尚典先生・梶原淳先生を迎え、下部消化管は今里光伸先生・金浩敏先生の体制で頑張っております。

この6月末には、イギリスの欧州連合(EU)離脱の是非を問う国民投票が行われ、その結果に多くの方が注目されたことと思えます。そこでは投票結果が出たあとで正確な情報や判断をしていなかったと後悔をしている国民がいることなども報じられていました。現在の医療福祉一体の制度改革構築はさまざまの勢いで進められております。わたくしたちは今こそ真剣に考える時です。当センターがこのりんくうの地域の中で、市民の皆様や周辺の医療や介護関連の方々とのような将来像を描くのか、皆で考え、実行していきたいと考えております。

今季のNICE SMILEの表紙にご協力いただきましたのは谷口生子様です。石垣島の川平湾を描かれたすばらしい絵です。気持ち癒されますね。皆さま方も忙しい中ではありますが、この絵に描かれているような場所でも有意義な夏休みをとられ、心身ともにリフレッシュされますように。



盛夏をむかえて

りんくう総合医療センター副病院長
兼地域医療サービスセンター長兼心臓センター長

永井 義幸

CONTENTS

表紙写真 / 「盛夏をむかえて」副病院長 永井義幸	1	エキスパート公開講座 / 部署紹介②「医療マネジメント課」	4
理事長メッセージ / 「第8回りんくう緩和ケア研修会」	2	連携施設紹介「いとうまもる診療所」「ふじや歯科医院」	5
山下病院長テレビ出演 / 荻田医師テレビ出演 /	3	「国際渡航ワクチン外来」/ 「出産祝い品」/ 「七夕かざり」	6
部署紹介①「医療安全管理室」		「編集後記」/ 「人権標語」	

理事長メッセージ 大災害と宇宙飛行士



平素からりんくう総合医療センターの診療・運営には多大なご支援とご理解を賜り、心から御礼申し上げます。

4月に熊本地震が発生した時、当院からもDMATを派遣しましたが、極めて困難な状況における活動状況の報告を聞き、大規模災害に対して自治体、消防、医療機関、等々の組織が日頃の訓練を積み重ねた上で、災害発生当初から強固に連携して行う迅速な対応は、過去の阪神大震災や東日本大震災などでの経験に基づいて、確実に向上しつつあることを実感しました。わが国における最大の恐怖は大震災や津波、水害などの自然災害であり、地域としても、病院としても、そして個人としても「日頃の備えが重要」ということでしょうか。

一方、多くの日本人犠牲者を出したバングラデシュのテロの報道からは、中東におけるイスラム過激派組織との戦闘、欧州におけるテロとシリア難民、米国内で多発する銃乱射事件、等々、海外にはさらに困難な状況の中で医療を行う人々もいることを思い起こしました。

どちらかというとき暗いニュースが多い中で明るい話題としては、日本人としては11人目の宇宙飛行士、大西卓哉さんが七夕の日にカザフスタンのバイコヌール宇宙基地から無事に国際宇宙ステーションに飛び立ったことが挙げ

られます。政治の世界では冷戦状態に近い国の人との間でも、宇宙飛行士の世界では国籍や人種の違いは全く関係なく、何カ月もの間、まるで家族のようにお互いを信頼し合っているというのは素晴らしいことです。夢を持って仕事をすることの重要さを語っていると思います。

2014年の診療報酬改定に対する対応も落ち着かぬまま、いつの間にかまた改定の年を迎えています。診療報酬と介護報酬の同時改定に医療法改定までが予定されていて、2025年に向けた節目の年になると予想されている2018年もすぐそこに来ているような切迫感を感じています。

この南泉州地域の医療を守るために、宇宙飛行士のようにとまでは言わないまでも、行政や組織の枠を超える強固な連携を実現させ、この困難な時代を乗り越えたいと願うばかりです。

今後とも、皆様方のご理解とご協力をお願い申し上げます。



りんくう総合医療センター 理事長
八木原 俊克

Palliative care Emphasis program on symptom management and Assessment for Continuous medical Education

第8回 りんくう緩和ケア研修会

『りんくう緩和ケア研修会』は、がん診療に携わる医療スタッフが緩和ケアについての基本的な知識を習得し、治療の初期段階から緩和ケアが提供されるようにすることを目的としたもので、8回目の今年は、「りんくう教育研修棟(サザンウィズ)」を会場とし、6月11日、12日の2日間にわたり開催しました。

研修内容としては、講義やロールプレイ、ワークショップ等を行い、2日間の研修を受講者全員修了することができました。

2日間、合計14時間にわたる長時間の研修でしたが、受講者の活発な議論や発表を通して知識を共有する大切な機会となりました。



産婦人科部長 荻田医師が



プロフェッショナル 仕事の流儀

に出演いたしました

産婦人科部長 荻田医師が、5月30日放送のNHK『プロフェッショナル仕事の流儀』に出演いたしました。近年、増加傾向にある「ハイリスク分娩」に向き合っている日々や、新人医師への熱心な指導の姿が描かれておりました。

NHK『プロフェッショナル 仕事の流儀』の公式サイトでは、予告動画と「プロフェッショナルとは」のインタビュー動画が視聴できます。是非ご覧ください。



番組：「プロフェッショナル 仕事の流儀」(NHK)
テーマ：「命の医療チーム、母子の伴走者」
放送日：平成28年 5月30日(月)
<http://www.nhk.or.jp/professional/search/index.html>



山下病院長が



医のココロ

に出演いたしました

山下病院長が、4月30日放送の『医のココロ』（MBS毎日放送）に出演いたしました。

「メタボと生活習慣病②」をテーマに、メタリックシンドロームの患者ではなぜ動脈硬化が起こりやすくなるのか、またどのようにすれば動脈硬化を防げるのかについて分かりやすくお話しいたしました。

『医のココロ』の公式サイトでは、放送内容が動画で掲載されておりますので、是非ご覧ください。



番組：「医のココロ」
presented by 沢井製薬（MBS毎日放送）
テーマ：「メタボと生活習慣病②」
放送日：平成28年 4月30日（土）
<http://www.mbs.jp/inokokoro/archive21.shtml>

部署紹介①

医療安全管理室

医療安全管理室長 位藤 俊一
医療安全管理室副室長 福島 健太郎
安全管理者 河野 純子・弥園 英治

「医療の質」の根幹をなすものは「医療の安全性」であり、安心・安全の医療の確保と保証が担保されて初めて「信頼される医療」が成立します。

りんくう総合医療センターの医療安全管理室は、地域の中核病院として、質の高い医療を提供する使命を担う基本方針に基づいて、院長直轄部門として位藤安全管理室室長・福島安全管理室副室長・河野・弥園安全管理者の4名が中心となり活動し、組織横断的に院内の医療安全の確保と、職場環境の改革に向けて取り組んでいます。

1. 医療安全対策の関わる取り組みの評価について多職種で議論する場を常に持つようにしています。
2. 報告に基づく医療安全の確保を基盤に原因を追究し改善策を立て、事象の再発を回避する支援を行っています。
3. 医療安全に関する研修会を企画運営し、最新の情報の把握と職員への周知を行っています。

医療には未だ不確実要素が多く含まれており、職員は常に危機感を持って職務に就いています。

同時に「To Err is Human:人は過ちを起こすものである」ことを前提に事故防止対策を講じる必要があります、発生事象に関しては被害を最小にするべく、情報を迅速に収集、共有することが初期段階では重要です。部署が密接に連携する

ことにより、早期の安全確保や問題解決につながります。様々な状況を考慮し病院全体で組織的・系統的に安全確実なシステムを構築するよう取り組んでいます。

診療は患者と医療者間の共同作業であり、同じ目標に向かって信頼関係を維持し、複数の選択肢から個々の状況に応じて適切に方針を選ぶことが求められます。

患者・医療者・部署・病院・地域等に関して発生する、問題事象を未然に防止することができるよう医療安全管理室一同取り組んでいきます。

さらに充実かつ適切な活動につながるよう「医療安全」に関して、ご意見ご要望をお聞かせいただければ幸いです。



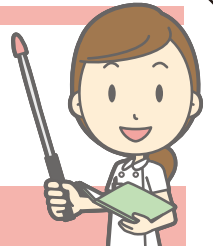
医療安全管理室スタッフ



エキスパートコース 公開講座

地域医療サービスセンター副センター長
兼看護師長兼急性期ケア推進室

高橋 敏枝



看護局では、当院の専門看護師や認定看護師が中心となって講義や演習等を取り入れたエキスパートコースを行っています。エキスパートコースは各専門領域での看護エキスパートを育成することにより、看護の質向上を図ることを目的に開催しています。

- ①脳神経ケア ②糖尿病ケア ③救急看護 ④循環器ケア
 - ⑤呼吸ケア ⑥褥瘡・ストーマケア ⑦がん化学療法ケア
 - ⑧感染管理 ⑨がん性疼痛緩和ケア ⑩精神・家族ケア
- の全10コースがあります。

また、エキスパートコースは近隣の病院看護師も受講できるシステムをとっており、多くの看護師が参加しています。直近では、6月15日に褥瘡・ストーマケアコースの開催がありました。16名の看護師が参加し、基本的なスキンケア・高齢者へのスキンケア・胃瘻造設患者さんのスキンケア・失禁に伴う皮膚障害とオムツ装着の講義と演習を行いました。



部署紹介②

医療マネジメント課

医療マネジメント課長 林 一彦

医療マネジメント課は、医事係13名、診療情報管理係5名、地域医療連携室16名、うちMSW(医療ソーシャルワーカー)6名、相談支援室1名と管理職3名の職員と委託業者の111名の非常に多い体制で業務を行っています。

医事係では委託業者と協力し365日、昼夜を問わず初再診受付、処置、手術、検査、薬剤などの会計業務や診療報酬請求・精査、病院施設基準に関する届出、病院統計管理、未収金回収業務、診療等に対する患者様対応を主な業務としております。

最近では、観光で来日された外国人の方が体調を崩され緊急着陸、緊急搬送で来院するケースが多くあり、国際診療科と協力し診療内容と治療費の説明を行うことで未収金を減らす取り組みをしています。

診療情報管理係では、診療記録の点検、運用管理や退院サマリ記載状況管理の情報を活用し、医療の安全に関連した同意書等にも関与し、DPCコーディングの適正化や分析を行い、診療科別の疾患別の収入や経営に関するデータ抽出を行っています。

また、大阪府がん診療拠点病院の指定医療機関でもあり、がんに関する登録も行ってあります。

地域医療連携室では、地域住民を対象とした市民健康講座を毎月開催し、地域連携窓口として地域医療機関と密接な関係を構築し、インターネット回線を介して検査等の閲覧ができるシステム「なすびんネット」での情報共有を進め、地域一体型の医療サービス活動や広報活動を行っています。

います。

また、MSWは、社会福祉制度や介護保険制度の支援が必要な患者さんの場合、早期に介入し関係機関と連携を密にして医療費や医療制度等の調整を行う事や地域医療機関と転院調整や退院調整の相談等に対応しております。

相談支援室では、患者さんや地域住民に対して看護師とMSWが共同して「がん」疾患やがん以外の疾患に関する治療の情報提供や生活環境等の相談を幅広く受けています。

医療マネジメント課は各部署、関係機関、地域住民とこれからも良好な関係を築いていきたいと思っております。今後ともよろしくお願いたします。



医療マネジメント課スタッフ



りんくう医療ネットワーク 連携施設の先生のご紹介

連携施設の先生をご紹介しますコーナーです。

当院では、「かかりつけ医」と連携し、地域ぐるみで質の高い医療サービスを推進しています。

いとうまもる診療所

院長 伊藤 守



【所在地】大阪府泉南郡熊取町希望ヶ丘3-7-14
【TEL】072-453-2821 【FAX】072-453-0135

【診療科目】脳神経外科、内科、リハビリテーション科、精神科、心療内科
【受付時間】(午前)8:45~12:00 (午後)15:00~18:00

	月	火	水	木	金	土	日
午前	○	○	○	○	○	×	△
午後	○	○	◎	×	○	×	×

△第1日曜日のみ 9:00~12:00診療あり
◎水曜日 15:00~18:00学校帰り向き、18:00~20:00通勤帰り向き

みなさんこんにちは。熊取で開業して6年になったところの、いとうまもる診療所院長です。

かなり高齢になってからの開業でしたので、脳神経外科勤務医としてやり残した3つの事を試したいと思って開業しました。

1つは、在宅医療です。脳卒中は急性期は意識障害のまま治療するので、2週間ではコミュニケーションも取れません。それが、在宅では生き生きと障害を乗り越えて生活されていてこちらも楽しくなります。

2つは、頭蓋外磁気刺激やボトックスを利用した先端治療の取り組みです。今でこそうつ病など、FDAでも公認された治療になりましたが、痛みコントロールから難病痙縮までその効果は、素晴らしいものがあります。

3つは、かかりつけ医として、地域の方々と一緒になんでも相談でき、24時間対応して様々な病気に対して在宅支援を行うことです。私が難病患者やがんターミナルの方々に寄り添う生活

を行うとは思っていませんでしたが、脳神経外科時代では知ることもなかったことを勉強でき、医学全体の進歩のすごさを知り、その中での脳神経外科の更なる魅力を感じることができました。定年65歳までは、全力で走ります。

また脳神経外科、精神科以外も肝臓、消化器病、内視鏡、糖尿病、内分泌、呼吸器内科、耳鼻科の各専門の先生の協力を得てオールインワンの地域包括診療所を目指しています。りんくう総合医療センターとも協働したいと思います。

今後ともよろしく
お願いします。



ふじや歯科医院

院長 藤谷 善光



【所在地】大阪府泉佐野市南中安松591-4
【TEL】072-465-7508【FAX】072-465-7507

【診療科目】歯科、小児歯科

【受付時間】(午前)9:00~12:00 (午後)14:00~19:30

	月	火	水	木	金	土	日
午前	○	○	○	○	○	○	×
午後	○	○	○	○ (17:00~)	○	×	×

皆様、こんにちは。

私は、「ふじや歯科医院」院長 藤谷 善光と申します。

泉佐野市の南中安松で平成元年の6月から開業させていただいておりまして、この6月で、開業28年目を迎えました。

当医院は開業当初より、子供さんからお年寄りまで気軽にかかって頂ける街のホームデンティストを目指しており、おかげさまでたくさんの患者様に通っていただいております。

最近では、顎関節治療、床矯正治療、ホワイトニングにも力を入れております。当医院にいらしていただいた患者さんには、必ず満足してお帰りいただけるよう、受付・スタッフ・歯科医師は納得の対応を心がけております。

また、平成9年から訪問診療にも取り組んでおり、おもに毎週木曜日の午後2時~5時の間に各施設や居宅などにお伺いしております。

今後も、地域の歯科医療に邁進して行く所存ですのでよろしく
お願いいたします。

在宅歯科治療に関しましては、地区の歯科医師会でも、最近「在宅歯科ケアステーション」を事務局内に立ち上げ「泉佐野泉南歯科医師会」の会員が日々、研さんを積んでおります。在宅歯科治療の必要なケースは、お気軽にご相談ください。

最後になりましたが、「りんくう総合医療センター」様には普段から「難抜歯」や「腫瘍の診断、手術」等で大変お世話になっておりこの場をお借りしてお礼を申し上げます。

日頃より、大変お世話になりありがとうございます。

ますますの地区の基幹病院としての貴院のご発展を祈念しております。今後ともよろしく
お願いいたします。



「国際渡航ワクチン外来」を開始しました

毎週火曜日 13:30~15:30
【完全予約制】

旅行や留学、海外赴任など渡航する際の健康被害のリスクを少なくし、海外での活動を安全なものにするために、平成28年6月7日より、「国際渡航ワクチン外来」を開始しました。

実施日は毎週火曜日で、13時30分から15時30分の時間枠で行っており、完全予約制としています。

現在、渡航ワクチンを実施している医療機関は、近畿圏内でも少なく、関西国際空港検疫所も月2回程度の限られた日で行っておりません。

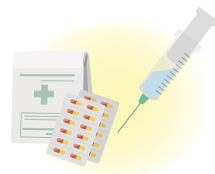
まず、どこの国・地域にどれぐらいの期間、どういう目的で滞在するのか？過去のワクチン接種歴は？滞在中はどういった注意をしなければならないのかなど渡航医学の専門家である三島医師が、相談内容に即したきめ細やかなアドバイスをを行い、適宜ワクチン接種や予防薬の処方などを行います。

特定感染病床を有し、海外からの輸入感染を水際で防止するといった役割を担う本センターにおいて、国際渡航ワクチン外来が開始できたのは大変意義のあることです。



総合内科・感染症内科 三島医師 談

スタートに向けて、3月中旬頃から関係者によるWGを5回開催し、準備を進めてきましたが、ワクチンの種類や必要な実施回数、接種間隔、年齢(過去の予防接種の変遷)により実施回数が異なるなど打合せを進めていくうちに、その内容の複雑さや希望者への対応の難しさが見えてきました。経験を積んでクリアーにしていくとともに、まだ始まったばかりですが、本センターは国際診療科との連携により、英語、中国語(標準語、広東語)スペイン語、ポルトガル語、タガログ語、マレー語など多言語対応できるのも大きな強みのひとつです。今後、利用者増に向けて広くPRし、渡航ワクチンの必要性を広めていければと考えております。



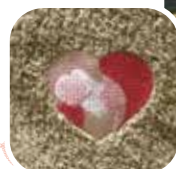
出産お祝い品

当センターオリジナル おくるみ

泉州広域母子医療センターでは、出産していただいた方にお祝いの気持ちを込めて、泉州こだわりタオルで当院のロゴをいれた「オリジナルおくるみ」をこの5月よりプレゼントさせていただいています。泉州タオルはふんわりと心地よい肌触りが魅力で、赤ちゃんにきつとご満足いただけると信じています。

ささやかではございますが、おくるみとして、タオルケットとして、バスタオルとして、未永くご使用いただければと思っています。

6階山側病棟看護師長 福島ひとみ



当センターのロゴ入りです。



七夕飾り

毎年、外来看護師が中心となり、ささやかではありますが、患者さんやご家族の希望や目標が叶いますようにと、笹に短冊を飾り付ける七夕のイベントを行っております。2階エスカレーター横に笹を設置し、可愛い飾りつけを行い、どなたでも記入できるように短冊を準備いたしました。通院されている患者さんや入院患者さんをはじめ、そのご家族やお見舞いに来られた方が、短冊にそれぞれの願いを込めて書きこまれています。

★★★★★★★★★★★★ 外来看護師長 松井美智子

編集後記

編集委員(事務局長) 藤原 正則

NICE SMILE 夏号 執筆者の皆様のご協力を得て、無事発行することが出来ました。ありがとうございます。

さて、りんくう総合医療センターの周産期センターでは少子化の影響を受け、昨年度は出産件数が減少しました。そのような中、今年度に入ってから出産お祝い品(おくるみ)の贈呈や妊産婦食事の改善、また和痛分娩の検討など様々な取組みを進めてきております。昨年マスコミでも大きく取り上げていただいたセンターの知名度アップとともに患者サービスの向上策が相乗効果となってよい方向に進めばと思います。

このNICE SMILEが配布される頃は、ブラジル リオデジャネイロオリンピックが開催されています。8月5日から21日までの17日間、世界のアスリートたちがしのぎを削って体力の限界に挑戦する姿は私たちに大きな感動を与えてくれます。4年に1回の祭典、日本選手の活躍を期待して皆さんで応援しましょう。くれぐれも寝不足にならないように。

人権標語 **人権はみんなが持つもの守るもの**